

2021年度  
(令和3年度)  
教職課程  
自己点検評価報告書

北里大学

2023 (令和5) 年 1 月

## 北里大学 教職課程認定学部・学科一覧

### 【学部・学科】

- ・ 獣医学部（動物資源科学科：中高一種（理科）、生物環境科学科：高一種（農業））
- ・ 海洋生命科学部（海洋生命科学科：中高一種（理科））
- ・ 看護学部（看護学科：養護教諭一種）
- ・ 理学部（物理学科：中高一種（理科）、化学科：中高一種（理科）、生物科学科：中高一種（理科））

## 大学としての全体評価

今年度初めて実施した教職課程自己点検・評価では、教職課程センター設置規程に内部質保証に関する事項を取り扱うことを定め、教職課程自己点検・評価委員会を置き、最終的には内部質保証の推進に責任を負う組織である学部長会で教職課程自己点検・評価結果を確認する体制を整えることからスタートした。

本学は、4学部7学科において教職課程を設置しており、中高一種（理科）、高一種（農業）、養護教諭一種の教員免許を取得することができる。開放制の教員養成制度として、建学の精神、各学部・学科の学位授与方針や教育課程の編成・実施方針に基づき、特色ある教員養成を行っていることを確認した。例えば、理学部では、物理学科、化学科、生物科学科において各々の学科の強みを生かした理科教員の養成が行われている。看護学部では、看護の実践能力を身に付けた養護教諭の養成が行われている。教職課程担当教員、学部の教員、学部事務室と教職課程センターが連携し、各々の役割を果たしている結果として、適正な教員養成が行われている。

授業科目レベルでは、教育の基礎的理解に関する科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた講義を多く実施している。学生は、アクティブ・ラーニングを経験し、将来生徒に「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」が展開できるよう、教育職員として必要な実践的な指導力を養っている。

一方、課題として理科の実験施設・設備の整備があげられるが、既存施設の有効活用を含め、引き続き検討する。また、コロナ禍において、ホームカミングデーなどの教員を目指すための動機づけとなる取り組みが実施できない状況が続いている。対面での実施にとらわれず、ICTを活用し開催することや、他の取り組みを行うことも視野に入れ検討する必要がある。

今後も、自己点検・評価を通して、各学部における強みや弱みを把握することで、本学における教職課程の改善と教育の質保証に活用していく。

北里大学長  
島袋香子

2021年度  
(令和3年度)  
教職課程  
自己点検評価報告書

2023（令和5）年 1月

北里大学獣医学部

目次

I 教職課程の現状及び特色	3
II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価	4
基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	4
基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	8
III 総合評価	10
IV 「現況基礎データ一覧」	11

## I 教職課程の現状及び特色

## 1 現況

大学・学部名等	北里大学 獣医学部 動物資源科学科				
所在地	青森県十和田市東二十三番町 15-1				
学生数及び教員数	学生数	教職課程履修者数		学部全体	
		動物資源科学科	52 人	動物資源科学科	500 人
		生物環境科学科	32 人	生物環境科学科	288 人
	教員数	教職課程科目担当 (教職・教科とも)		学部全体	
		動物資源科学科	17 人	動物資源科学科	19 人
		生物環境科学科	14 人	生物環境科学科	11 人
				その他 (教職含む)	7 人

## 2 特色

獣医学部においては、広く自然界における生物の科学を生命尊重の立場から探求することを教育理念としている。教職課程においてはこの理念を踏まえ、動物資源科学科においては生命の誕生から、人と動物の関係、食と健康の関係までの実践的な知識・技能を身に付けた中学校・高等学校理科教員を、生物環境科学科においては土や水など動植物が生きる自然環境に関する実践的なフィールド科学の知識・技能を身に付けた高等学校農業科教員を養成することを目標としている。

このような教員養成の理念に基づいて、教職課程を選択履修する学生には、生物学を含め自然科学分野の確かな学力と、子どもたちに理科の楽しさ・面白さを理解させ、あるいは食と農への興味を引き出す意欲とをもつことを求めている。

教職課程のカリキュラムは、各学科の専門内容を生徒に分かりやすく伝えるための教科教育法（動物資源科学科では理科教育法、生物環境科学科においては農業科教育法）、教育方法論やその実践段階としての教育実習（事前・事後指導を含む）、教職実践演習などを基本的柱としつつ、子どもや学校にかかわる多様な科目については、理論にとどまらず実践面を重視するよう心がけている。本学部の学生は卒業後、民間企業、国家及び地方公務員を含め幅広い分野に就職しあるいは大学院修士課程に進学する者が多いが、民間等でキャリアを積んだ後、将来的に教員に転じる者もいることも特徴的である。実際、そのようなコースをたどって現在教員となって活躍している卒業生が少なくない。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

## 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1 - 1 教職課程教育の目的・目標の共有
〔現状説明〕 毎年度、全学教職課程共通の『教職課程便覧』を作成して、教職課程教育のねらいを「児童生徒の成長や発達、学習者の心理や教育の方法などを学習」することを通じて「人間性を磨き、専門職としての教員に求められている資質や能力を身に付けること」にあると明記し、学生はもとより教職員間で教職課程教育の目的・目標を共有している。
〔長所・特色〕 本学の教育理念・目的は「生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与する」ことにある（学則第1条）。これを踏まえ、前掲『教職課程便覧』では「教職課程の教員は、将来、中学校・高校の理科教員、高校の農業科教員・・・と言えば『北里大学』と言われるようにしたいと願っています。」と謳っている。獣医学部では「いのちを尊び、生命の真理を探求し、実学の精神をもって社会に貢献する」（本学の理念：『学生便覧』より）志をもつ理科教員（動物資源科学科）及び農業科教員（生物環境科学科）を養成することを念頭に学生を指導している。
〔取り組み上の課題〕 教職課程を履修する学生は各学科定員の一部の学生ということもあり、教職課程と学科双方の教員間で、教員養成に特化した情報の共有・協議・連携の場としては年2回の教職課程委員会（両部門それぞれ数名出席）の開催にとどまっている。
〈根拠となる資料・データ等〉 1 - 1 - 1 『教職課程便覧 2021 年度 入学生用』（北里大学教職課程 作成） 1 - 1 - 2 2021 年度第1回・第2回 獣医学部 教職課程委員会議事録

<p>基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫</p>
<p>〔現状説明〕</p> <p>獣医学部においては 2019 年度再課程認定初年度から本年度（2021 年度）まで、教職課程専任教員 3 名（教授 2 名、准教授 1 名）と、認定基準を上回る体制で新カリキュラムに対応してきた。研究者教員 2 名、実務家教員 1 名の構成である。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>2018 年度までの獣医学部教職課程における専任教員の構成は、長きにわたって研究者教員中心の構成であったが、教育実習講義、教職実践演習など教育活動の実践面の指導には実務家教員が欠かせないとの考え方に立ち、2019 年度以降は、少なくとも 1 名は実務家教員を配置することとしてきた。定期的に教職課程専任担当者間で学生の履修状況などについて情報交換や打ち合わせを行ってきた。また他学部には比較的 school 現場の経験豊富な教員がいることから、毎年度数回開催する全学の教職課程センターの運営委員会において、実務的な立場からの助言を得、他学部における効果的運営を参考にするなど連携協力している。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>本学部の教職課程授業を担当する非常勤講師を交えての定期的な意見・情報交換の機会を持ちたいところであるが、昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大によって実現できない状況にある。今後感染が収束したら可能性を探っていきたい。</p>
<p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>1 - 2 - 1 2021 年度 北里大学教職課程センター運営委員会 議事録</p>

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

<p>基準項目 2 - 1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成</p>
<p>〔現状説明〕</p> <p>毎年度入学生オリエンテーション期間には、教職課程担当教員が教職課程ガイドンスを行い、教職の魅力、教職課程カリキュラムの概要、公・私立学校教員採用をめぐる全国的及び本学部における状況などについて詳細な説明を行っている。また履修者には1年次に教職課程ポートフォリオ（履修カルテ）を配布して自身の履修状況を記録することとし、3年次修了時と4年次後期の教職実践演習の授業において、各自が身に付けた教員としての資質能力を確認することに活用している。</p> <p>他方、教職課程履修者に求められる資質の維持向上のため、4年間の関係科目学修状況を把握し、一定の基準に達しない場合は、特に教育実習の履修を延期するなど、安易な履修によって本学部の教員養成の質の低下を招くことのないよう研鑽努力を促している。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>動物資源科学科、生物環境科学科ともに、教育実習の評価も高く、教員としての資質を備えた学生においても、早ければ3年次末頃から民間企業による就職内定が出るため、教員採用試験の受験に至る学生が多くない現状がある。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>動物資源科学科、生物環境科学科ともに、教育実習の評価も高く、教員としての資質を備えた学生においても、早ければ3年次末頃から民間企業による就職内定が出るため、教員採用試験の受験に至る学生が多くない現状がある。</p>
<p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>2 - 1 - 1 2021年度教職課程オリエンテーション（1年次向け）レジュメ</p> <p>2 - 1 - 2 北里大学教職課程履修ポートフォリオ</p>



<p>基準項目 2 - 2 教職へのキャリア支援</p>
<p>〔現状説明〕</p> <p>教職課程専任教員により 2019 年度から教員を志願する学生を対象として「自主ゼミ」を開催している。内容は、筆記試験については、本学が一般大学の教職課程であることから、特に手薄となりがちな教職教養を中心として過去の問題の出題傾向の解説と学内模擬試験を実施している。また集団討論・集団面接や模擬授業や場面指導も通常の授業内では実施できないことから、個人面接とともにゼミ内でトレーニングの機会を保障している。</p> <p>教職に就く動機を高め選択を促す有効な手段として、毎年本学部を卒業し教壇に立っている先輩（動物資源科学科は中学・高校理科教員、生物環境科学科は高校農業科教員）を特別講師として招き、在学中の学修状況から教師を目指し採用されて今日に至るまでのライフコースを語ってもらっている。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>学部全体の中では教職課程を選択履修する学生は少ないが、教職に就くことを真に望む学生にとっては、教育実習の指導案の作成や教員採用試験対策を同じ目標を持った少数のグループ内で互いに切磋琢磨し合うことがむしろ効果的と考える。そのために学内に各種の文献、参考書類、パソコンを使用できる「教職ルーム」を設け、必要なときは教員の指導を仰ぐ体制を整えている。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>教員採用に向けた「自主ゼミ」を、2・3年次のできる限り早い段階から参加できるように、学年・学科にとらわれない学習機会を保障していきたい。</p>
<p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>2 - 2 - 1 2021 年度動物資源科学科卒業生の教員免許状取得者数及び教員就職者数</p> <p>2 - 2 - 2 2021 年度教職実践演習特別講話「北里大学卒業生後の私の教職ライフコース」</p> <p>2 - 2 - 3 北里大学獣医学部「教職ルーム」利用規則</p>

## 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

<p>基準項目 3 - 1 教職課程カリキュラムの編成・実施</p>
<p>〔現状説明〕</p> <p>本学における教職課程カリキュラム（教育の基礎的理解に関する科目）に関しては、教職課程センターにおける協議を通じて、基本的に全ての学部学科において開設科目名・単位数、開設年次などの共通化を図っている。特に「教育実習の履修要件」については、3年次までに教育の基礎的理解に関する科目のすべてについて単位を修得し、かつ4年次前期までの「教育実習講義（事前指導）」を受けていることを『教職課程便覧』に明記し共通認識としている。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>2020年度から「教育実習講義」の一部授業について、新学習指導要領のねらいに関して造詣の深い理学部教員に集中講義で協力を仰いでいる。</p> <p>2021年度末には4年次前期の授業を3年次に一部前倒しで実施し、公立中学校の現職教員を特別講師として招聘し、逆に理学部学生と合同（遠隔方式を利用）で実験を用いた模範授業を行っている。</p> <p>教職実践演習では、特に不登校、いじめ、保護者・地域との連携などのテーマについて討論し合う「事例研究」においてはアクティブラーニングの手法を採用している。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>教職課程履修者の多くは、4年次の教育実習体験を通じて初めて教職の魅力に気づき、教員としての自分の適性能力を磨く必要性を理解する。3年次までの間に学校現場に入り教師や生徒と交流する機会が得られるような養成カリキュラムへの改善が望まれる。</p>
<p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>3 - 1 - 1 『教職課程便覧 2021 年度入学生用』</p>

<p>基準項目 3 - 2 実践的指導力育成と地域との連携</p>
<p>〔現状説明〕</p> <p>教職課程の指導体制として、学校現場での経験をもつ実務家教員は専任教員では 1 名だが、非常勤教員の多くは、各授業科目について実践経験豊富な方に就任を依頼している。その多くは、地元自治体の教育委員会とのパイプを有しており、大学近隣の中学校・高等学校の見学や授業参観、講師派遣などについて橋渡しの役割も担っていただいている（2021 年度は新型コロナウイルス感染防止のため中止）。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>教職実践演習では、正規のカリキュラムでは触れられることの少ない領域について特別講話を地域の専門家に依頼している。2021 年度は「学校教育・児童福祉行政の連携」として児童相談所所長経験者の立場から、また「多様で特色ある高等学校専門教育」として総合学科をもつ高校の教頭の立場から、の講話を聴講した。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>本学部キャンパスの所在地である十和田市教育委員会及び青森県教育庁上北教育事務所の指導主事、十和田市中学校校長会長、上北地域高等学校校長会長らと本学教職課程教員から成る青森県上北地方教育実習研究協議会が以前から設立され、主として本学学生の教育実習の受入れの協議、広く本学における教員養成に関する要望を拝聴してきた。しかし 2020 年度以降、新型コロナウイルス感染防止の観点から開催を見送ってきた。近年、履修者数の減少に伴って、母校での実習が叶わず、大学の近隣の中学校、高等学校での実習を依頼するケースも少なくなり、同協議会の開催そのものの意義が薄れてきつつある。教員養成に関し大学と地域との連携協力の新たな形を検討したいと考える。</p>
<p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>3 - 2 - 1 十和田東中学校 学校訪問・授業参観 実施要項 (2020 年度：参考)</p> <p>3 - 2 - 2 十和田工業高等学校 学校見学 実施要項 (2020 年度：参考)</p> <p>3 - 2 - 3 青森県上北地方教育実習研究協議会 設置要項</p>

## III 総合評価

2021年度は、2019年度の教職課程再課程認定から3年目となり、教員指導体制は安定し、新たなカリキュラムもほぼ一巡して定着してきた。

新養成カリキュラムでは、特別支援教育（1単位・両学科）や理科教育法（従来のⅠ・Ⅱ4単位からⅢ・Ⅳの4単位増の計8単位・動物資源科学科）などの新科目の増加によって免許状取得要件が重くなったが、教職課程を履修する学生は、専門科目以外に年間3科目から最大8科目、単位数にして6単位から13単位の負担増をこなして、4年次の教育実習、そして中には教員採用試験に向かって努力を続けている。

獣医学部教職課程としては、少人数規模の指導形態を活かし、アクティブラーニングや個別指導も採用しつつ、教職への適性能力と強い志願動機をもつ学生には正課外の「自主ゼミ」を開設して進路支援を行っている。

結果として毎年度数名程度の卒業生が教職に就いていることから、理科（動物資源科学科）及び農業（生物環境科学科）に関する専門教育の理論・実践レベルの高さを強みとした特色ある教員養成のスタイルを形成しつつあると自負している。

## IV 「現況基礎データ一覧」

令和4（2022）年5月1日現在

法人名	学校法人北里研究所					
大学・学部名称	北里大学 獣医学部					
学科やコースの名称	動物資源科学科 生物環境科学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等						
① 昨年（2021年）度卒業者数	動物資源科学科	131人	生物環境科学科	74人		
② ①のうち就職者数 （企業、公務員等を含む）	動物資源科学科	109人	生物環境科学科	65人		
③ ①のうち教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）	動物資源科学科	12人	生物環境科学科	4人		
④ ②のうち、教職に就いた者の数	動物資源科学科	2人	生物環境科学科	1人		
④のうち、正規採用者数	動物資源科学科	1人	生物環境科学科	0人		
④のうち、臨時的任用者数	動物資源科学科	1人	生物環境科学科	1人		
2 教員数						
	教授	准教授	講師	助教	その他	計
教員数						
動物資源	6人	7人	3人	3人	0人	19人
生物環境	5人	4人	1人	1人	0人	11人
相談員・支援員など専門職員数 0人						

2021年度  
(令和3年度)  
教職課程  
自己点検評価報告書

2023（令和5）年1月  
北里大学 海洋生命科学部

目次

I	教職課程の現状及び特色	3
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	5
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	5
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	8
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	12
III	総合評価	16
IV	「現況基礎データ一覧」	17

## I 教職課程の現状及び特色

## 1 現況（令和4年5月1日現在）

大学・学部名等	北里大学 海洋生命科学部・海洋生命科学科				
所在地	神奈川県相模原市南区北里 1-15-1				
学生数及び教員数	学生数	教職課程履修者数	61人	学部全体	767人
	教員数	教職課程科目担当 (教職・教科とも)	21人	学部全体	30人

## 2 特色

海洋生命科学部では、海洋生命科学一般の専門技術とその基盤となる学門領域を理解し、国際的な視野を持ち、これらを基に自らの意見を伝える能力、判断力、実践力を持つ人材の育成を目的とし、こうした人材を育成するために、以下の資質・能力を修得した者に学位を授与することとしている。

(1) 自然、文化、社会、人間の多様性を認識し、多様な価値観を理解する能力（多面的思考能力）

(2) 数学、自然科学、情報技術に関する基礎知識と、それを海洋生命科学分野の問題解決に応用する能力（自然科学の基礎知識・理論）

(3) 水圏生物の生理・生態、高度有効利用、環境との関わりなど海洋生命科学に関する一貫した基礎知識と、水圏生物の利用に関わる多様な分野に対応する能力（専門分野の知識・技術）

(4) 情報を収集・分析して水圏生物資源の利用に関する問題を発見し、その解決策をデザインする能力（問題解決能力）

(5) 与えられた条件の中で実験を遂行し、結果を解析、考察する能力（実務遂行能力）

(6) 自分の考えを的確かつ論理的に表現する能力、および英語によるコミュニケーションを図るための基礎能力（コミュニケーション能力）

(7) 専門技術者として責任ある社会活動を可能にする倫理観（技術者倫理）

(8) 継続的に学習しながら、絶えず変化する科学技術に迅速に対応する能力（継続的学習能力）

その特徴を活かした教科に関する専門的事項の教育を行っている。具体的には教育課程の編成・実施方針にのっとり、全ての科目を8項目の研究教育上の目的(学習・教育目標)の何れかに対応させるとともに、4年間のカリキュラムの中で基礎科目から発展的科目へと段階的に配置し、卒業論文を集大成科目として位置付けることによって、学生が学習・教育目標の達成度を自己評価しつつ、学習を進めることができるカリキュラムの編成を基本としている。

海洋生命科学部では、海洋生命科学の基礎知識、専門技術を身に付け、コミュニケーション能力や継続して学ぶ力を備えた理科教員の養成を行っている。



学習・教育目標の達成を推進する方策として、実践的学習の強化および少人数教育の展開を図り学生の理解力を向上させている。この間、「教育の基礎的理解に関する科目」、「教科の指導法に関する科目」を効果的に配置し、専門的な知識に加え幅広い教養を備えた教員の養成を行っている。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

## 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

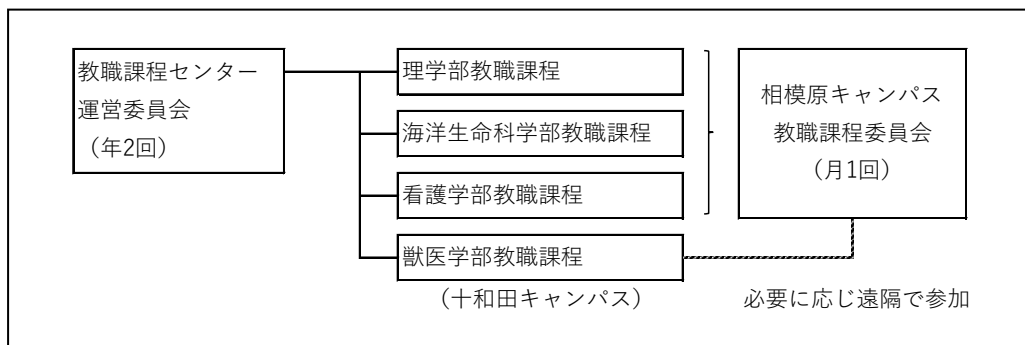
基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有
<p>〔現状説明〕</p> <p>本学では育成を目指す教師像を「北里大学は、北里柴三郎を学祖とする生命科学の総合大学です。本学においては、建学の精神である「開拓」、「報恩」、「叡智と実践」、「不撓不屈」に基づき、幅広い教養を重視しながら、「使命感・責任感」、「教育的愛情」、「生徒理解」、「教科等の専門的知識に基づく実践的な指導力」をもつ教員の養成を目指しています。」としており、これを大学 Web ページに掲載し、学内外に周知している。</p> <p>また、毎年度全学教職課程共通の「教職課程便覧」を作成して、教職課程における教育のねらいを「児童生徒の成長や発達、学習者の心理や教育方法などを学習」することを通じて「人間性を磨き専門職としての教員に求められる資質や能力を身に付けること」にあるとし、オリエンテーション時に学生に配付し説明するとともに教職員間で共有している。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>海洋生命科学部では前記のとおり学位授与方針を定めている。</p> <p>学科の学位授与方針に基づき、その特色を生かした理科教員の養成を行っており、学位授与方針については、大学の Web ページに掲載、学修要項にも掲載しており、オリエンテーション時にも学生に説明するとともに、教職員とも共有している。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>本学の教員養成の目的は建学の精神を軸とし、「使命感・責任感」、「教育的愛情」、「生徒理解」、「教科等の専門的知識に基づく実践的な指導力」をもつ教員の養成を目指すとしている。教職課程履修者に対しては教職課程便覧に各学科で履修すべき科目を示し、それに基づき、各学部学科の特色を生かした理科教員の養成を行っている。今後は、教職課程便覧を Web ページに公開することや、教職課程ポートフォリオ（履修カルテ）とともに学生に配付するなど可視化を進めることを検討する。</p>
<p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>1-1-1：北里大学における教員養成の状況について  <a href="https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/about/disclosure/study/teacher_training.html">https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/about/disclosure/study/teacher_training.html</a></p> <p>1-1-2：学位授与方針  <a href="https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/academics/policy/diploma_policy.html#ank-d6">https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/academics/policy/diploma_policy.html#ank-d6</a></p> <p>1-1-3：学修要項（シラバス）</p>

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

教職課程に関する諸課題の基本方針を企画・立案・検討するとともに本学における共通的な教職課程を運営し、教職課程教育の充実及び発展に資することを目的として、教職課程センターを設置している。教職課程に関するカリキュラムの編成、教職課程の履修登録、教育実習の調整などを各学部事務室と連携を図り実施している。

教職課程センターでは、各学部の教職課程担当教員をセンター員として位置付けている。また、本学の教職課程センターの円滑な運営を図るため、運営委員会を置き、センターの運営方針や内部質保証に係ることを審議することとしている。



図に表されるように、各学部の教職課程において、教職課程担当教員と事務担当者による協働体制を構築し、各学部教職課程と教職課程センターが連携し本学教職課程を運営している。

教員養成の状況については、取得できる免許種やシラバスなどを本学の Web ページで公開、学内外へ発信し教職員学生とも共有している。また、「北里大学教職課程センター教育研究」を年 1 回発行し、主に教職課程担当教員の教職課程に関する教育研究及び実践報告の発表の場として提供している。

〔長所・特色〕

学部事務室と教職課程センターが連携し、教育実習の実施に係る調整を行っており、実習先との連絡調整は教職課程センターが行うという役割分担ができあがっている。また、教育実習時の学生による研究授業には、学生が所属する研究室の教員が実習先へ訪問指導することとしている。学部教員も教員養成の現場に参加することで学部教職課程と教職課程センターとの協働体制を築いている。なお、研究室の教員がやむを得ず訪問できない場合には、教職課程担当教員が代行することとなっている。

〔取り組み上の課題〕

教職課程教育を行う上での施設設備の整備として、理科の実験を行うスペースが十分ではないため、近隣の高校の実験室を借り実験をしている。このことは実験技術の向上とあわせて学校現場を身近に感じることができるというメリットはあるが、現在のコロナ禍で実施できていない状況にある。学内にそのスペースがあれば教員として

の実践力をより身に付けることができると考えられ、その確保が課題である。  
また、ICT に関する設備については現状十分とは言えないが、今後情報系の新学部  
(未来工学部) が開設されることにより、その施設・設備を有効活用されることが期  
待できる。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1-2-1 : 北里大学教職課程センター設置規程
- 1-2-2 : 北里大学教職課程センター設置規程細則
- 1-2-3 : 北里教職課程センター教育研究

## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

<p>基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成</p> <p>〔現状説明〕</p> <p>海洋生命科学部では以下の選抜者基本方針を掲げ、入学者を受け入れている。</p> <p>海洋生命科学部は、水圏生物やその生命過程に関する幅広い知識・理論・技術を備えるとともに課題解決力や国際性をあわせ持ち、海洋生物資源を保全・利用する多様な分野において活躍できる人材を育成、社会に送り出すことを目的とすることから、学位授与方針に示した各能力の修得に熱意を持つ入学者を選抜することを基本方針としています。</p> <p>選抜者基本方針の下海洋生命科学科において求める学生像を定めている。</p> <p>学部が掲げる以下の学修・教育目標を達成する資質とこの分野における学習に熱意を持つ学生を望んでいます。</p> <p>(1) 人類共通の水圏生物資源の利用に携わる技術者として、自然、文化、社会、人間の多面性を認識し、多様な価値観を理解する能力の修得。</p> <p>(2) 数学、自然科学、情報技術に関する基礎知識と、それらを海洋生命科学分野の問題解決に応用する能力の修得。</p> <p>(3) 水圏生物の生理、生態、高度有効利用、環境との関わりなど海洋生命科学に関する一貫した基礎知識と、水圏生物の利用に関わる多様な分野に対応する能力の修得。</p> <p>(4) 情報を収集・分析して水圏生物資源の利用に関する問題を発見し、その解決策をデザインする能力の修得。</p> <p>(5) 与えられた条件の中で実験を遂行し、結果を解析、考察する能力の修得。</p> <p>(6) 自分の考えを的確かつ論理的に表現する能力、および英語によるコミュニケーションを図るための基礎能力の修得。</p> <p>(7) 専門技術者として責任ある社会活動を可能にする倫理観の修得。</p> <p>(8) 継続的に学習しながら、絶えず変化する科学技術に迅速に対応する能力の修得。</p> <p>以上を求める学生像として Web ページにて学内外に発信し、海洋生命科学科の特徴を生かし、教育者として活躍できる人材（入学生）の確保を行っている。</p> <p>入学後直ちに行われるオリエンテーションにおいて、教職課程の履修を希望する者に対し、教職課程担当教員から教職課程の履修、専門職としての教員の在り方、卒業した教職課程履修者の進路状況などの詳細な説明を行っている。教職課程履修者は、学部の専門科目に加えて、「教育の基礎的理解に関する科目」を履修し、その学修を通して人間性を磨き、専門職としての教員に求められる資質や能力を身に付ける必要がある。時間的な制約も多く、教職を担うにふさわしい学生でないと教職課程の履修を続けることは困難であるということを確認し、強い意志で臨むよう指導を行っている。そのため、履修者数の制限は設けていないが、例年それに応え得る学生が履修登</p>
--

<p>録を行い、卒業後の教員免許状の取得を目指して学修している。</p> <p>履修を継続するための基準として、3年次までに配当された教育の基礎的理解に関する科目等を全て修得し、かつ学部学科を卒業見込みの学生のみ、4年次に教育実習を行えることとしている。</p> <p>教職課程ポートフォリオ（履修カルテ）に、毎年度履修した科目の振り返りや今後の課題、求められている教員としての資質や能力が各学年でどの程度身についたかを記入する。その内容に基づき、教職課程担当教員は学生と面談し、学修状況に応じ、きめ細やかな対応を行うこととしている。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>学科の学位授与方針の下、卒業要件となる学科の専門科目のほとんどを「教科に関する専門的事項」で満たせることとしており、学部の学位授与方針に基づく、その特色を大いに生かした教員養成を行っている。特に、免許法施行規則に定められる化学においては、海洋生物化学、海洋生物利用学、生物学においては、魚類学、生物海洋学などを必修としている。このことから海洋生命科学の基礎知識、専門知識を備えた特色のある理科教員の養成が行われていることがわかる。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>入学時のオリエンテーションで教職課程の履修について詳細な説明を行ったうえ、それを理解した学生が、履修登録し、今後4年間の学修に取り組むが、その後の過程で教職課程の履修を放棄する学生も一定数存在している。オリエンテーション時に卒業後の進路についての説明を詳しく行い、教員としての将来像をしっかりと持たせることなど、途中で履修を放棄する学生を減らす取り組みについて検討する。</p>
<p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>2-1-1：学位授与方針</p> <p>2-1-2：入学者受入方針</p> <p>2-1-3：新入生オリエンテーション資料</p> <p>2-1-4：教職課程便覧</p> <p>2-1-5：教職課程ポートフォリオ（履修カルテ）</p>

<p>基準項目 2-2 教職へのキャリア支援</p>
<p>〔現状説明〕</p> <p>教員採用の求人情報は、就職センターと連携を図り、教職課程センターに集約することで、学生と教員が自由に閲覧できるようにしている。学生からの進路相談については、教職課程担当教員が個別面談による指導・相談体制を設けている。</p> <p>教員採用試験受験希望者に対して、主に3年生を対象に、10月から12月の毎週土曜日に教員採用試験に向けた基礎力実践力の養成を目的として、試験対策自主セミナーの支援をしている。また、例年2月に対策講習会を開催し、5日間の講習会で、教員採用試験の概要と最近の状況、教職教養の要点（教育心理や教育史など）、論作文の書き方の解説に加えて、集団面接・集団討論を体験するプログラムを実施している。</p> <p>4年次生に対しては「教員採用試験・面接対策直前指導」として、公立学校の2次試験直前の7月下旬から8月上旬の3日間開催している。日ごろ接している本学の教員ではなく、外部講師を招き本番さながらの集団面接・個人面接の指導を行っている。</p> <p>キャリア支援の充実、本学の教員養成の更なる発展のため卒業生との連携を強化する観点から、「北里大学教職課程ホームカミングデー」を2016年度から開催している。本学同窓会の協力の下、本学で教職課程を履修し教員となった卒業生を招き、学生との交流の機会を提供している。</p> <p>進路選択の一つとして、横浜国立大学と教員養成高度化連携に関する連携協定・覚書を締結し、連携大学特別選抜入試による横浜国立大学教職大学院への進学を可能にしていること、またそれに基づく、教職大学院接続準備プログラムを実施している。2021年度は連携大学特別選抜入試により1人が教職大学院へ進学している。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>キャリア支援の充実と本学の教員養成の更なる発展のため、本学卒業生との連携を強化する観点から、「北里大学教職課程ホームカミングデー」を2016年度から開催している。このイベントは本学同窓会の協力の下、本学で教職課程を履修し教員となった卒業生を招き、学生へ最新の学校現場の生の声を伝え、また、学生が直接模擬授業を行い、卒業生教員からアドバイスを受け意見交換を行うなど交流の機会としている。2016年度の開催時には卒業生34人、学生95人の参加があり、参加者のアンケート結果からは、本イベントに対する満足度は高いことが分かる。3年に1回のペースで開催しており、2回目を2019年度に実施（2019年11月9日開催 卒業生36人、学生165人）した。本来、2022年度は開催すべき年度ではあるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、開催を見送った。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>卒業生との交流事業として「北里大学教職課程ホームカミングデー」を実施してい</p>

るが、前述のとおり、開催を見送った状況にある。本学の特色ある取り組みであるため、次年度以降は例えばオンラインで実施するなど対応を検討し、開催する方策を探る必要がある。あわせて学生にとっても教職課程履修の動機づけとなる非常に効果のある取り組みではあるがその予算の確保も課題の一つである。

〈根拠となる資料・データ等〉

2-2-1：教員採用試験対策自主ゼミナール開催のお知らせ

2-2-2：教員採用試験対策講習会実施案内

2-2-3：教員採用試験・面接対策直前指導の案内について

2-2-4：教職課程ホームカミングデー実施要領

2-2-5：横浜国立大学と教員養成高度化連携に関する連携協定・覚書



## 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施
<p>〔現状説明〕</p> <p>教職課程履修者の必修となる教科に関する専門的事項のほとんどは卒業要件に含まれる。</p> <p>海洋生命科学科：卒業要件124単位のうち、教科に関する科目47単位を含む。</p> <p>その観点からも建学の精神、学科の学位授与方針や教育課程の編成・実施方針を踏まえた理科教員の養成ができています。</p> <p>その観点からも建学の精神、学科の学位授与方針や教育課程の編成・実施方針を踏まえた理科教員の養成ができています。</p> <p>教職課程の授業科目の多くはアクティブ・ラーニングを取り入れて実施している。例えば、1年次に配当されている教職概論では、教科書、参考書、配付するレジュメや資料等に基づく授業を基本としているが、まとまりごとに討論や発表等を行うとしており、早期に発表や討論といった方法を取り入れた授業を行っている。また、教職概論では、授業ごとに学んだことと振り返りを「学びの記録」に整理することで、自らの学びを調整して授業の目的を実現できるようにしている。</p> <p>教職課程のシラバスについては、各科目の学修内容、評価方法など必要な情報を記入し学生と教員で共有できている。このことは、全学の教育委員会において、毎年シラバスの作成要領を作成し、記載項目に齟齬がないよう、全教員へ周知しているからであり、この中で、①準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間、②課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法、③授業における学修の到達目標及び成績評価の方法及び基準、④卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連、⑤当該授業科目の教育課程内の位置づけや水準を表す数字や記号（ナンバリングを含む）などの記載も求めている。それに加えて、学部内の教員によるシラバスの第三者チェックを実施しており、記載項目に漏れがないか、学生に分かりやすく記載されているか等について、チェック表を基に確認作業を行っている。</p> <p>4年次に教育実習を行う上での履修要件としては、教育実習を実りのあるものとするため、3年次までに配当された教育の基礎的理解に関する科目等を全て修得し、かつ学部学科の卒業見込みの学生のみが履修できることとしている。このことは、教職課程便覧において明示しているほか、ガイダンス等でも周知している。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>今日の学校教育に対応する内容上の工夫として、教職課程科目において、高等学校の現職の教員などによる講義や神奈川県立総合教育センターや高等学校の訪問を実施している。教職課程を履修している学生は、それらから教育現場の実践を踏まえた教職の意義についての知見や教育現場の最新の動向について知ることができる。</p> <p>例えば理科教育法IVでは、国立教育政策研究所教育課程研究センターの学力調査官</p>

や、神奈川県内の高等学校等から現役の教員を外部講師として招き理科の最新動向や、教育現場の現状を踏まえた講義を実施している。

〔取り組み上の課題〕

ICT の活用については教育方法論の中でデジタルコンテンツを用いた実習と模擬授業、スマートフォンを用いた対話的授業実習と模擬授業を実施しており、理科教育法の中でも ICT 機器や授業支援システムを活用した模擬授業と相互評価、それを通じた検討を講義として行っている。今後、ICT 活用に関する科目が開講されるため、科目間での授業展開や必要に応じ設備の導入について検討する必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 3-1-1：履修登録単位数の上限（CAP 制）の緩和に関する規程
- 3-1-2：学則
- 3-1-3：教職課程便覧
- 3-1-4：シラバス

<p>基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携</p>
<p>〔現状説明〕</p> <p>実践的指導力を育成するため、現場での体験活動の機会を設定している。</p> <p>まず、介護等体験は、教職課程センターと神奈川県教育委員会、神奈川県社会福祉協議会と連携し実施している。2年次は特別支援学校2日間と3年次は社会福祉施設へ5日間の日数で学生派遣の調整を行っている。介護等体験に参加する学生には「介護等体験記録簿」の作成を義務付けており、介護等体験にあたっての抱負と課題や日々の活動目標を体験前に記入させる。体験中にはその内容、支援を行う上での留意点や感想、反省点や自己評価を日々記入させ、それを各施設側の教員（援助者）の確認を得る仕組みを作っている。日々の振り返りだけでなく、介護等体験をすべて終えたのち、最終的な感想、成果を記入する。このことで、学生の実践的指導力の定着を図る。</p> <p>次に、相模原市内の県立高校4校と連携を図り、教職課程履修学生が、高校で行われている研究発表会への参加や、「地域とともにある学校」の取り組みでは実際の授業を見学する機会を与え、実践的指導力を育成している。</p> <p>正課外の取り組みとなるが、教職課程センターと相模原市教育委員会の共催により相模原市内の小学生を対象とし「夏休み子ども実験教室」を開催している。学生にとっては「理科の楽しさを教える楽しさを学ぶこと」、地域子どもたちには「理科の実験を通じてその面白さを体験してもらうことで、科学への関心を高めること」を目的としている。学生自らが主体となり子供たちへの実験の指導を行い、企画・運営、広報活動を行うことを通して企画力や実践的指導力養う学びの機会としている。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>希望者に対して、横浜市との連携により、横浜市内の中学校や高等学校へ短期（1日）の学校インターンシップを実施している。科目として開設はしていないが、主に3年生を対象として1月下旬から2月上旬にかけて、実際の学校において生徒と接し、教育や学校の実体験を通して学び、教育実習への不安を解消し、学んだことを教育実習に生かす取り組みをし、実践的指導力を育成している。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>実践的指導力を養うためにはやはり、対面での体験が一番効果的と考えられるが、コロナ禍において実施できない状況が続いている。夏休み子ども実験教室は2019年度を最後に開催できていない。今後は感染対策を十分に講じての対面での開催や、その他オンラインによる開催なども視野に入れて効果的に学生が実践的指導力を身に付けられる方法を検討する。あわせて、学生の希望を踏まえた新たなインターンシップやボランティア活動を提供する必要性も検討する。</p>
<p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>3-2-1：介護等体験記録簿</p>

3-2-2 : 夏休み子ども実験教室 (北里研究所報)

3-2-3 : 横浜市学校インターンシップ開催案内

## III 総合評価

海洋生命科学部では、中学校一種（理科）、高等学校一種（理科）の教員免許状を取得できる。前身の水産学部から45年以上理科教員の養成を担い、今までに1,200人を超える学生が教員免許を取得し、そのうち約150人が教育職員として従事している。学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に則ったカリキュラムに基づき、教科に関する専門知識や、幅広い知識を備え実践的な指導力を持った教員養成が適切に行われているといえる。これには、学部の専門科目を担当する教員の尽力に加え、教職課程担当教員が、授業に関することや、進路指導などをきめ細かく対応していることも大きく関係している。また、介護等体験や、希望者へ実施している短期学校インターンシップなどの取り組みにより、実践的な指導力を養える場所を提供できていることも一つの要因である。今後も海洋生命科学の知識を基盤とする、特色のある理科教員の養成に取り組んでいく。

講義等では、教育に関する専門的事項や教科の指導法において、多くの科目でアクティブ・ラーニングを取り入れており、学生が主体的に学ぶことの重要性を認識させることができている。3年次から4年次にかけては教員採用試験の対策講座や面接直前指導を実施し、学生の就職支援体制が構築されており、キャリア支援についても適切に機能している。

この中で、施設・設備の整備が課題となるが、実験室などは教職課程専用の実験室の設置も含め、既存の施設の有効活用を検討することや、ICT機器や環境の整備等も検討を進める必要がある。

教職課程の組織については、今後も教職課程センターとの連携を維持し、教員の確保や教育実習の調整など円滑に進められるよう、引き続き適切な運営に努める。

## IV 「現況基礎データ一覧」

令和4（2022）年5月1日現在

法人名	学校法人北里研究所					
大学・学部名称	北里大学海洋生命科学部					
学科やコースの名称	海洋生命科学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等						
① 昨年（2021年）度卒業生数	185人					
② ①のうち就職者数 （企業、公務員等を含む）	137人					
③ ①のうち教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）	19人					
④ ②のうち、教職に就いた者の数	7人					
④のうち、正規採用者数	4人					
④のうち、臨時的任用者数	3人					
2 教員数						
	教授	准教授	講師	助教	その他	計
教員数	11人	8人	9人	1人	1人	30人
相談員・支援員など専門職員数 0人						

2021年度  
(令和3年度)  
教職課程  
自己点検評価報告書

2023（令和5）年1月  
北里大学看護学部

目次

I	教職課程の現状及び特色	3
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	4
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	4
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	10
III	総合評価	14
IV	「現況基礎データ一覧」	15



## I 教職課程の現状及び特色

## 1 現況（令和4年5月1日現在）

大学・学部名等	北里大学 看護学部・看護学科				
所在地	神奈川県相模原市南区北里 2-1-1				
学生数及び教員数	学生数	教職課程履修者数	22人	学部全体	518人
	教員数	教職課程科目担当 (教職・教科とも)	39人	学部全体	47人

## 2 特色

看護学部では、生命科学系総合大学のなかで他学部と連携を図り、高度医療、医療安全の確保、予防医療、介護予防など、多様化した保健医療に対する社会の要請に応える幅広い知識と技能を備え、看護専門職者としてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とし、以下の資質・能力を修得した者に学位を授与することとしている。

- (1) 人間の尊厳・権利への深い理解と高い倫理観に基づく行動力
- (2) 豊かな人間性と幅広い教養を基盤として、自己理解と対象との相互理解に基づく援助的人間関係を築く力
- (3) 看護学とその関連分野の知識を基盤として、多様な対象に科学的根拠に基づく看護を提供できる実践力
- (4) 多様な保健医療福祉の場において、多職種との連携の中で看護専門職としての機能を発揮できる能力
- (5) 必要な情報や研究成果を看護実践に活用し、課題解決に導くための基礎的能力
- (6) 変化する社会や医療の動向を踏まえ、生涯にわたって研鑽し続けられる姿勢

学位授与方針の下、看護の実践力を持つ、養護教諭一種の教員養成を行っている。具体的には、教育課程の編成・実施方針にのっとり、まず、一般教養を広く履修する。次に、専門科目全般を通じて看護専門職者としての高い倫理観を備え、看護実践をするための科学的根拠に基づく知識や技術を講義・演習・臨地実習科目を通して身に付ける。さらに、医療におけるチームワークやリーダーシップを涵養する機会や、異なる文化への理解を得られる機会を提供することができるカリキュラムとなっている。併せて、「養護に関する科目」に加え、「教育の基礎的理解に関する科目」を効果的に配置し、看護の実践能力の高い養護教諭の養成を行っている。

それらを通して、看護学部がめざす養護教諭一種免許取得者の人材養成像を以下のとおり定めている。

- 1) 看護学部の基本理念および使命に則り、学部の特性とそこで得られる看護師の資格を活かした、専門性が高く、視野の広い養護教諭を養成する。
- 2) 心身の健康教育の必要性が高まり、養護教諭の役割が重要となっている学校教育の中で、実践の場で指導力を発揮できる人材を養成する。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

## 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

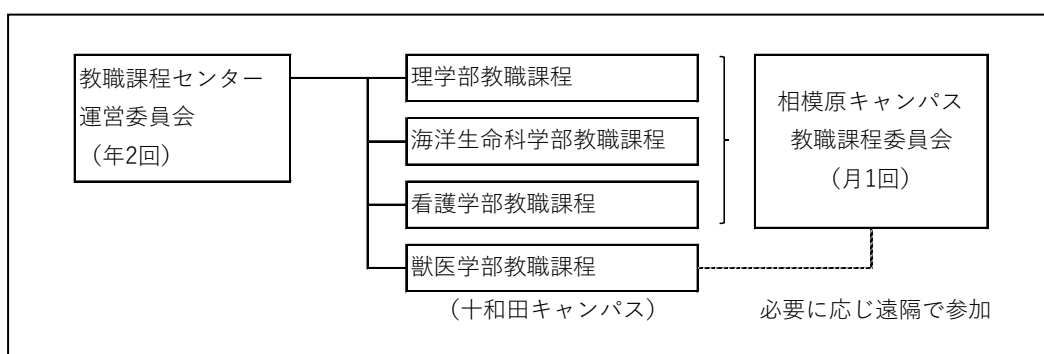
基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有
<p>〔現状説明〕</p> <p>本学では育成を目指す教師像を「北里大学は、北里柴三郎を学祖とする生命科学の総合大学です。本学においては、建学の精神である「開拓」、「報恩」、「叡智と実践」、「不撓不屈」に基づき、幅広い教養を重視しながら、「使命感・責任感」、「教育的愛情」、「生徒理解」、「教科等の専門的知識に基づく実践的な指導力」をもつ教員の養成を目指しています。」としており、これを大学 Web ページに掲載している。</p> <p>また、毎年度全学教職課程共通の「教職課程便覧」を作成して、教職課程教育のねらいを「児童生徒の成長や発達、学習者の心理や教育方法などを学習」することを通じて「人間性を磨き専門職としての教員に求められる資質や能力を身に付けること」にあるとし、オリエンテーション時に学生に配付し説明するとともに教職員間で共有している。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>看護学部では、さらに「養護実習要項」を毎年度作成し、教育理念、本学部の教育目標とともに本学部がめざす養護教諭一種免許取得者の人材養成像を明示しており、オリエンテーション時に学生に配付、説明するとともに、教職員にも配布している。看護学部の養護教諭の人材養成像は学部 Web ページにも掲載されており、学生、教職員へ共有されるとともに、学外にも発信している。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>看護学部では、入学時のオリエンテーションで履修を考えている学生に対し、教職課程便覧を配付し、教育目標から履修の実際まで、詳しく説明を行っている。</p> <p>一方で、その教職課程便覧には看護学部がめざす養護教諭一種免許取得者の人材養成像を掲載していない。便覧全体のバランスを考えながら、より多くの学生、教職員に周知ができるよう掲載について検討する。</p>
<p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>1-1-1 養護実習要項</p> <p>1-1-2 教職課程便覧</p> <p>1-1-3 看護学部 Web ページ「取得できる資格」</p> <p><a href="https://www.kitasato-u.ac.jp/nrs/gakubu/career/license.html">https://www.kitasato-u.ac.jp/nrs/gakubu/career/license.html</a></p>

## 基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

## 〔現状説明〕

教職課程に関する諸課題の基本方針を企画・立案・検討するとともに本学における共通的な教職課程を運営し、教職課程教育の充実及び発展に資することを目的として、教職課程センターを設置している。教職課程に関するカリキュラムの編成、教職課程の履修登録、教育実習の調整などを各学部事務室と連携を図り実施している。

教職課程センターでは、各学部の教職課程担当教員をセンター員として位置付けている。また、本学の教職課程センターの円滑な運営を図るため、運営委員会を置き、センターの運営方針や内部質保証に係ることを審議することとしている。



図に表されるように、各学部の教職課程において、教職課程担当教員と事務担当者による協働体制を構築し、各学部教職課程と教職課程センターが連携し本学教職課程を運営している。

教員養成の状況については、取得できる免許種やシラバスなどを本学の Web ページで公開、学内外へ発信し教職員学生とも共有している。また、「北里大学教職課程センター教育研究」を年 1 回発行し、主に教職課程担当教員の教職課程に関する教育研究及び実践報告の発表の場として提供している。

## 〔長所・特色〕

看護学部では、学部の教育委員会において、教職課程に関する事項を協議事項（任務）とし、看護師養成に関する教育とともに養護教諭の養成についても学部全体で協議する体制を構築している。具体的には、学部教職課程の運営に関することや履修方法に関すること、教育実習に関することなどを協議することと規定している。学部教育委員会の中で主体的に教職課程に関する事項を検討するため、学部教育委員会の下に教職課程部会を設置しその任を果たしている。部会は、教職課程担当教員と学部の専門科目を担当する専任教員（小児看護学）で構成されており、前記の事項を学部教育委員会で協議する前に検討する仕組みを構築している。

## 〔取り組み上の課題〕

看護学部では、学部教育委員会の下に教職課程部会を設置している。学部専門科目担当教員と教職課程担当教員で構成されており、連携を図り学部教職課程の適切な運

営が図られている。また、教職課程担当教員が全学の教職課程センターの運営委員となっており、全学との連携もとれている。

一方、教職課程センターは、副学長をセンター長とする独立した組織であり、教職課程の運営に係る責任を負う組織である。学部との連携の緊密化に伴い、責任上・運営上などの重なりがあり、検討・整理が必要である。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1-2-1：北里大学教職課程センター設置規程
- 1-2-2：北里大学教職課程センター設置規程細則
- 1-2-3：北里教職課程センター教育研究
- 1-2-4：北里大学看護学部教育委員会規程

## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

<p>基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成</p> <p>〔現状説明〕</p> <p>看護学部では以下の選抜者基本方針を掲げ、入学者を受け入れている。</p> <p>看護学部は、豊かな人間性と幅広い教養を身に付け、医療や社会の変化に対応しながら人々の健康的な生活を支援できる看護専門職者の養成を教育目標としています。入学者の受け入れにおいては、学力に偏ることなく、一人ひとりの特色のある考え方や人間性、広く看護の場で活躍したいと願う積極性や高校生活における活動などを総合的に勘案した選抜を行うことを基本方針としています。</p> <p>求める学生像</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生涯を通じ探究心をもって看護学を学び続けられる学生</li> <li>(2) 柔軟な発想をもち、進んで困難や課題に対処できる学生</li> <li>(3) 慎重に考慮しながら行動できる学生</li> <li>(4) 人とかかわりを大切にし、社会に貢献したいと考える学生</li> </ol> <p>以上を求める学生像として Web ページにて学内外に発信し、看護師として求められる能力を備えた養護教諭として活躍できる人材（入学生）の確保を行っている。</p> <p>入学後直ちに行われるオリエンテーションにおいて、教職課程履修希望者に対し、前出の教職課程部会の教員から教職課程の履修、専門職としての養護教諭の在り方、卒業した教職課程履修者の進路状況などの詳細な説明を行っている。教職課程履修者は、学部の養護に関する科目、多彩な実習を含む看護師養成課程の科目に加えて、「教育の基礎的理解に関する科目」を履修し、その学修を通して人間性を磨き、専門職としての教員に求められる資質や能力を身に付ける必要がある。そのため、時間的な制約も多く、教職を担うにふさわしい学生でないと教職課程の履修を続けることはできないという指導を行っている。</p> <p>履修中の学生に対しては、教職課程ポートフォリオ（履修カルテ）を用いて、教職課程担当教員が毎年度末に個別に学生と面談を行い、今までの学修の振り返り、指導を行いきめ細やかな対応を行っている。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>看護学部では、教職課程履修者を1学年最大15人に制限している。これは、教職課程を履修しても、看護師免許の受験資格を得ることに差し支えない学習意欲に優れた学生を選抜することを目的としている。</p> <p>具体的には、まず、2年生で初めて教職課程の履修登録を行う。その後、2年生の3月に1、2年時の学部専門科目と教育の基礎的理解に関する科目の学修成績と小論文、面接により養護教諭を志望する動機や目的等を確認し、履修の可否を総合的に判定している。合格と判定された者のみ3年生以降の履修登録を許可している。</p>

〔取り組み上の課題〕

履修基準を設け、最大 15 人の履修者を確保することとしているが、2022 年度は、2 年生 5 人、3 年生 9 人、4 年生 8 人となっており各学年で 15 人を下回っている。

学生募集段階でも、学部パンフレットには取得できる資格として養護教諭一種免許を掲載しており、現在養護教諭として勤務している卒業生からのコメントも掲載し広報も適切に行えている。ただ履修者が増えればよいというものではないものの、養護教諭の養成と看護師養成との両立の難しさがそこにはあるとも考えられる。学生の要望を把握、分析する等、履修者を増やす取り組みの必要性について検討する。

〈根拠となる資料・データ等〉

2-1-1：北里大学ホームページ（アドミッション・ポリシー）

[https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/academics/policy/admission\\_policy.html](https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/academics/policy/admission_policy.html)

2-1-2：教職課程便覧

2-1-3：看護学部デジタルパンフレット

[https://www.d-pam.com/kitasato-u/2210174\\_D/index.html#target/page\\_no=5](https://www.d-pam.com/kitasato-u/2210174_D/index.html#target/page_no=5)

<p>基準項目 2-2 教職へのキャリア支援</p>
<p>〔現状説明〕</p> <p>看護学部では、前記のとおり、学生の学修意欲や適性を見極めるため、2年生の3月に、面接と小論文及びそれまでの成績をもって履修者の選抜を行っている。選抜については教職課程部会の教員により行われ、学部教授会へ報告されている。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>看護学部では、教育の現場で看護師としての専門性を発揮できる養護教諭になることを目標としており、卒業後は看護師として病院等に就職し、医療現場での実践経験を積み重ねた後に、養護教諭として勤務することが多い。</p> <p>北里大学教職課程センター教育研究（紀要）において現在養護教諭として勤務している卒業生から「養護教諭になるまで」と題した教員採用試験対策や看護師として勤務していた時代の経験談を掲載し、キャリア支援の一つとしている。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>教職課程履修者には、卒業後、看護師としての経験を積む者が多いが、卒業後、すぐ養護教諭として勤務する者もいる。加えて、卒業後、看護師としての経験を積んだ卒業生が養護教諭として就職する実績も徐々に増えている。このことは、学生のニーズや適性を把握した支援が行えていることを表している。</p> <p>教員免許取得件数を増やすには教職課程履修者数を確保する必要があるため、まずは履修者を増やす取り組みの必要性を検討する。また、現在看護師としてある程度の年数を勤務している卒業生に対し、養護教諭の求人情報を提供すること、それを可能とする卒業生とのネットワークを構築することの必要性について検討する。</p>
<p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>2-2-1：教職課程便覧</p> <p>2-2-2：北里大学教職課程センター教育研究 第3号（2017）P143～、第7号（2021）P165～</p>

## 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施
<p>〔現状説明〕</p> <p>教職課程の授業科目の多くはアクティブ・ラーニングを取り入れて実施している。例えば、2年次に担当されている教職概論では、教科書、参考書、配付するレジュメや資料等に基づく授業を基本としているが、まとまりごとに討論や発表等を行うとしており、早期に発表や討論といった方法を取り入れた授業を行っている。また、教職概論では、授業ごとに学んだことと振り返りを「学びの記録」に整理することで、自らの学びを調整して授業の目的を実現できるようにしている。</p> <p>教職課程のシラバスについては、各科目の学修内容、評価方法など必要な情報を記入し学生と教員で共有できている。このことは、全学の教育委員会において、毎年シラバスの作成要領を作成し、記載項目に齟齬が出ないように、全教員へ周知しているからであり、この中で、①準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間、②課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法、③授業における学修の到達目標及び成績評価の方法及び基準、④卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連、⑤当該授業科目の教育課程内の位置付けや水準を表す数字や記号（ナンバリングを含む）などの記載も求めている。それに加えて、学部内の教員によるシラバスの第三者チェックを実施しており、記載項目に漏れがないか、学生にわかりやすく記載されているか等について、チェック表を基に確認作業を行っている。</p> <p>4年次に養護実習を行う上での履修要件としては、まず3年生までに担当された教育の基礎的理解に関する科目等を全て修得し、かつ学部学科の卒業見込みの学生のみが履修できることとしている。このことは、教職課程便覧において明示しているほか、ガイダンス等でも周知している。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>看護学部では、看護師免許の受験資格を得るとともに養護教諭一種免許を取得できるカリキュラムを編成している。</p> <p>教育課程の編成・実施方針は以下のとおりである。</p> <p>看護学部では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施しています。</p> <p>(1) 一般教育科目を文化社会・健康・数理・情報・自然科学・総合領域・教養演習の全分野から履修させ、幅広い教養を身に付けさせるとともに、豊かな人間性の基盤を培います。</p> <p>(2) 専門科目全般を通じて、人間の尊厳・権利の理解を深め看護専門職者としての高い倫理観を身に付けるとともに、自己理解や看護の対象との相互理解に基づく援助的人間関係が構築できる機会を提供します。</p> <p>(3) 科学的根拠に基づく看護実践をするための基盤となる人体の機能と構造、疾病、</p>



感染制御に関する知識と技術を看護学の中に統合させた講義・演習・実習科目を系統的に配置します。

(4) ライフサイクルを通して成長発達する社会的存在である人々が、環境と相互作用して健康的な生活および尊厳ある死を迎えることを支える看護実践に必要な知識・技術を修得させるための専門科目の講義・演習・臨地実習科目を系統的に配置します。

(5) 多様な保健医療福祉の場において、多職種と連携して看護の機能を発揮できる知識・技術を修得させるために全学的なチーム医療教育科目、看護マネジメント、地域ケアシステムに関する総合科目を系統的に配置し、医療におけるチームワークやリーダーシップを涵養する機会を提供します。

(6) 看護実践の中にある様々な問題を科学的に探究する論理的思考力や、医療、看護に関する情報や研究成果を看護実践に適切に活用するための基本的能力を獲得するための、卒業研究に取り組む講義・演習科目を履修させ、生涯にわたって看護実践能力向上のために研鑽し続けられる姿勢を養います。

(7) グローバル化する世界において、異なる文化や習慣を有する対象を理解し、看護の課題について検討する機会を提供します。

(8) 多様な対象の健康問題に取り組む看護専門職者の育成を目指し、保健師教育課程、助産師教育課程、養護教諭教育課程を配置します。

具体的には、1年次では基本的な知識と看護技術を修得し、看護学の基礎を確実に身に付けると同時に1群科目として幅広く教養科目を修得する。2年次には看護を科学的な視点から学び、看護実践の基本となる基礎医学を学ぶ。3年次からは2年次までに培った知識やスキルを基に専門領域別の臨地実習でより学びを深める。4年次には専門領域の学びを深めるとともに統合実習により看護の実践能力を確かなものにする。この4年間の看護師養成のカリキュラムと同時に2年生以降、教育の基礎的理解に関する科目を配置し、学部の特性を生かした養護教諭の養成カリキュラムを編成している。

#### 〔取り組み上の課題〕

看護学部のカリキュラム上、臨地実習は必要不可欠であり、特に3年生から4年生にかけて多くの専門領域の実習科目が配置されている。その中で4年生として小学校・中学校・高等学校のいずれかに3週間、特別支援学校に4日間の養護実習が必要とされる。看護の実践能力を備えた本学ならではの養護教諭の養成ができていると考えられるが、一方では学生の負担が大きく、担当教員には臨地実習の合間を縫って養護実習を配置するための日程調整などの難しさがある。現行のカリキュラムは、学部の要請と教職課程の要請をよく両立させていると考えられることから、今後は、教職課程担当教員による定期的な面談など、学生の心身のケアや学習意欲を維持するための取り組みの必要性について検討する。

〈根拠となる資料・データ等〉

3-1-1：履修登録単位数の上限（CAP制）の緩和に関する規程

3-1-2：学則

3-1-3：教職課程便覧

3-1-4：シラバス

<p>基準項目 3 - 2 実践的指導力育成と地域との連携</p>
<p>〔現状説明〕</p> <p>実践的指導力を育成するため、現場での体験活動の機会を与えている。</p> <p>相模原市内の県立高校 4 校と連携を図り、教職課程履修学生が、高校で行われている研究発表会への参加や、「地域とともにある学校」の取り組みでは実際の授業を見学する機会を与え、実践的指導力を育成している。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>特別支援学校での見学実習 4 日間実施している。障がいのある児童生徒の学校での活動を見学し、成長・発達や健康上の特性を学ぶことと、保健室において障がいのある児童生徒と養護教諭のかかわりから養護教諭の役割や機能を学ぶことを目的としている。見学実習を終えたのち、日々、養護実習日誌を記録する。日誌には本日の実習目標や実習予定を記載し、実習後、そこでの学び、考察、翌日以降の課題を記載し、振り返りの機会を設けている。日誌には指導教員による所見を記載するようにしておりフィードバックをいただくことで実践的な指導力の定着を図っている。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>看護師の実践能力を養うため、専門科目において多くの臨地実習を修得する。医療の現場で患者様とかかわることで学生は実践能力を身に付けていく。その経験は養護教諭の養成においても重要なものとなる。</p> <p>その経験を実践的な指導力として身に着けるため、例えば連携校でのインターンシップなど、教育の現場における経験をより多く積むことができるようその機会を提供する必要がある。</p>
<p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>3 - 2 - 1 : 養護実習要項</p>

## III 総合評価

看護学部では、養護教諭一種の教員免許状を取得できる。課程認定を受け最初の卒業生を輩出してから約10年の間、養護教諭の養成を行い、今までに約100人の学生に対し教員免許を与えている。そのうち約10人が教育職員として従事している。そこには学位授与方針、教育課程の編成・実施方針にのっとったカリキュラムに基づき、看護実践の能力を基礎とした実践的な指導力を持った教員養成が適切に行われていると判断できる。これには、学部の専門科目を担当する教員の尽力に加え、教職課程部会を構成する教員が、学生に対しきめ細かく対応していることも大きく寄与している。

看護の実践能力を確かなものとするため、看護師養成カリキュラムでも、臨地実習など多くの「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」を取り入れている。教育の基礎的理解に関する専門的事項においても、多くの科目でアクティブ・ラーニングを取り入れており、学生が主体的に学ぶことの重要性を認識させることができている。

キャリア支援としては、卒業生との連携をより強化し、養護教諭として就職できるようにサポート体制を構築していきたい。

教職課程の組織については、今後も、看護学部の教職課程部会と教職課程センターとの連携体制を維持し、業務を円滑に進められるよう引き続き適切な運営に努める。

## IV 「現況基礎データ一覧」

令和4（2022）年5月1日現在

法人名	学校法人北里研究所					
大学・学部名称	北里大学・看護学部					
学科やコースの名称	看護学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等						
① 昨年（2021年）度卒業生数	127人					
② ①のうち就職者数 （企業、公務員等を含む）	126人					
③ ①のうち教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）	7人					
④ ②のうち、教職に就いた者の数	0人					
④のうち、正規採用者数	0人					
④のうち、臨時的任用者数	0人					
2 教員数						
	教授	准教授	講師	助教	その他	計
教員数	12人	10人	11人	14人	0人	47人
相談員・支援員など専門職員数 0人						

2021年度  
(令和3年度)  
教職課程  
自己点検評価報告書

2023（令和5）年1月  
北里大学理学部

目次

I	教職課程の現状及び特色	3
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	4
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	4
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	8
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	12
III	総合評価	16
IV	「現況基礎データ一覧」	17

## I 教職課程の現状及び特色

## 1 現況（令和4年5月1日現在）

大学・学部名等	北里大学 理学部				
所在地	神奈川県相模原市南区北里 1-15-1				
学生数及び教員数	学生数	教職課程履修者数	142人	学部全体	917人
		物理学科	44人	物理学科	234人
		化学科	43人	化学科	340人
		生物科学科	55人	生物科学科	343人
	教員数	教職課程科目担当 (教職・教科とも)		学部全体	48人
		物理学科	18人	物理学科	15人
		化学科	19人	化学科	17人
		生物科学科	18人	生物科学科	14人
			教職課程	2人	

## 2 特色

理学部では、物理学・化学・生物科学の分野における高水準の知識と実験技術を身に付け、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた人材を育成することを目的とし、以下の資質・能力を修得した者に学位を授与することとしている。

- (1) 自然科学の基本原則を理解し、これを基盤とした測定・解析技術
- (2) 基礎知識と実験技術に基づいた、自然現象・生命現象に対する正確な判断力
- (3) 科学的な知識、思考、判断により社会が直面する問題に取り組む意欲、能力

あわせて、各学科等において定める学位授与方針に基づき、各学科の特徴を生かした教科に関する専門的事項の教育を行っている。具体的には教育課程の編成・実施方針にのっとり、学部の専門科目と並行して一般教育科目を履修することにより、専門外の分野及び語学の素養を身に付け、自然科学の幅広い分野にわたる基礎知識を有することは専門分野の深化にもつながることから、他分野の基礎知識・技法を学べるカリキュラムとしている。

こうして物理学科では、多彩な自然現象の物理的な原理を解明するための基礎力とそれを活用することができる力を身に付けた教員を、化学科では、物質の性質とその変化に関する広汎な知識を持ち、生命科学をはじめとする様々な分野での実行能力を備えた教員を、生物科学科では、生命科学についての高度な知識と研究技能を有し、様々な分野で活躍できる科学的な思考力を備えた教員を養成している。

講義によって得た知識を実習や演習を通して体得し、より確実な知識として確立し、最後にその集大成として、卒業研究を行うこととしている。この間、「教育の基礎的理解に関する科目」、「教科の指導法に関する科目」を効果的に配置し、各学科の専門的な知識に加え幅広い教養を備えた理科教員の養成を行っている。



## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

## 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有
<p>〔現状説明〕</p> <p>本学では育成を目指す教師像を「北里大学は、北里柴三郎を学祖とする生命科学の総合大学です。本学においては、建学の精神である「開拓」、「報恩」、「叡智と実践」、「不撓不屈」に基づき、幅広い教養を重視しながら、「使命感・責任感」、「教育的愛情」、「生徒理解」、「教科等の専門的知識に基づく実践的な指導力」をもつ教員の養成を目指しています。」としており、これを大学 Web ページに掲載している。</p> <p>また、毎年度全学教職課程共通の「教職課程便覧」を作成して、教職課程における教育のねらいを「児童生徒の成長や発達、学習者の心理や教育方法などを学習」することを通じて「人間性を磨き専門職としての教員に求められる資質や能力を身に付けること」にあるとし、オリエンテーション時に学生に配付し説明するとともに教職員間で共有している。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>学部の学位授与方針の下、各学科において以下のとおり、学位授与方針を定めている。</p> <p>〔物理学科〕</p> <p>理学部物理学科では、自然現象に潜む原理や法則を理解し、多彩な自然現象や物質の性質を解明するための基礎力を身に付け、宇宙論から生命現象まで、さまざまな分野において未知の領域に切り込んでいく力を備えた人材を育成することを目的とします。</p> <p>こうした人材を育成するために、以下の資質・能力を修得した者に学位を授与します。</p> <p>(1) 自然現象の物理的な原理を理解し、これを基盤とした測定・解析・情報処理技術</p> <p>(2) 近年、広がりを見せる物理的な方法論に対するニーズに応え、物理的知識、測定・解析・情報処理技術を物理領域のみならず、様々な境界領域において活用し、フロンティアを切り拓いていく能力・意欲</p> <p>〔化学科〕</p> <p>理学部化学科では、実社会における多様な製品の生産基盤である物質の性質とその変化に関する基礎知識（構造、反応、機能、合成）を教授し、実践を通して生命科学や環境科学から医療、教育にわたる幅広い分野での研究・開発で活躍できる人材を育成することを目的とします。こうした人材を育成するために、以下の資質・能力を</p>

修得した者に学位を授与します。

- (1) 基本原理に基づく測定・解析能力を修得し、物質の構造、反応機構を究明できる能力
- (2) 基礎知識を用いた物質の設計、合成と機能評価ができる実践力
- (3) 物質に対する広汎な知識、的確な判断力を基に、生命科学をはじめとする様々な分野での意欲的な立案、実行能力

〔生物科学科〕

理学部生物科学科では、生命科学についての高度な知識と研究技能を有するとともに、普遍的な生命現象のしくみを理解し、生物学や基礎医学などの多岐にわたる分野で活躍できる科学的思考能力を備えた人材を育成することを目的とします。こうした人材を育成するために、以下の資質・能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) 生物科学の基礎となる分子生物学・細胞生物学の知識・研究技法を学び、研究を遂行できる能力
- (2) 発生学や免疫学を学び、生命科学の広い分野に研究を展開できる能力
- (3) 社会が直面する問題の解明や技術革新に貢献しうる科学的思考能力と意欲

各学科の学位授与方針に基づき、各々の学科の特色を生かした理科教員の養成を行っており、学位授与方針については、大学の Web ページに掲載、学修要項にも掲載しており、オリエンテーション時にも学生に説明するとともに、教職員とも共有している。

〔取り組み上の課題〕

本学の教員養成の目的は建学の精神を軸とし、「使命感・責任感」、「教育的愛情」、「生徒理解」、「教科等の専門的知識に基づく実践的な指導力」をもつ教員の養成を目指すとしている。教職課程履修者に対しては教職課程便覧に各学科で履修すべき科目を示し、それに基づき、各学部学科の特色を生かした理科教員の養成を行っている。今後は、教職課程便覧を Web ページに公開することや、教職課程ポートフォリオ（履修カルテ）とともに学生に配付するなど可視化を進めることを検討する。

〈根拠となる資料・データ等〉

1-1-1：北里大学における教員養成の状況について

[https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/about/disclosure/study/teacher\\_training.html](https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/about/disclosure/study/teacher_training.html)

1-1-2：学位授与方針

[https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/academics/policy/diploma\\_policy.html#ank-d6](https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/academics/policy/diploma_policy.html#ank-d6)

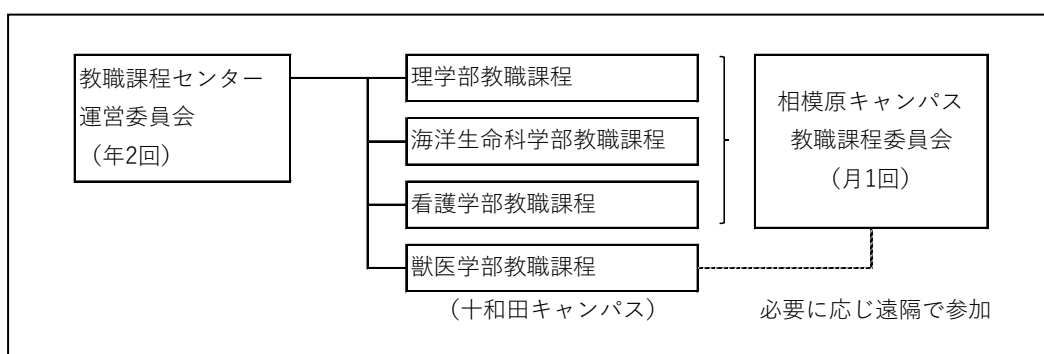
1-1-3：学修要項（シラバス）

## 基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

## 〔現状説明〕

教職課程に関する諸課題の基本方針を企画・立案・検討するとともに本学における共通的な教職課程を運営し、教職課程教育の充実及び発展に資することを目的として、教職課程センターを設置している。教職課程に関するカリキュラムの編成、教職課程の履修登録、教育実習の調整などを各学部事務室と連携を図り実施している。

教職課程センターでは、各学部の教職課程担当教員をセンター員として位置付けている。また、本学の教職課程センターの円滑な運営を図るため、運営委員会を置き、センターの運営方針や内部質保証に係ることを審議することとしている。



図に表されるように、各学部の教職課程において、教職課程担当教員と事務担当者による協働体制を構築し、各学部教職課程と教職課程センターが連携し本学教職課程を運営している。

教員養成の状況については、取得できる免許種やシラバスなどを本学の Web ページで公開、学内外へ発信し教職員学生とも共有している。また、「北里大学教職課程センター教育研究」を年 1 回発行し、主に教職課程担当教員の教職課程に関する教育研究及び実践報告の発表の場として提供している。

## 〔長所・特色〕

学部事務室と教職課程センターが連携し、教育実習の実施に係る調整を行っており、実習先との連絡調整は教職課程センターが行うという役割分担ができあがっている。また、教育実習時の学生による研究授業には、学生が所属する研究室の教員が実習先へ訪問指導することとしている。学部の教員も教員養成の現場を身近に感じ、実態を知り、学部の専門教育が現在の教育現場でどのように扱われているかを知る機会となっている。なお、研究室の教員がやむを得ず訪問できない場合には、教職課程担当教員が代行することとなっている。

## 〔取り組み上の課題〕

教職課程教育を行う上での施設設備の整備として、理科の実験を行うスペースが十分ではないため、近隣の高校の実験室を借りて実験を行っている。このことは実験技術の向上とあわせて学校現場を身近に感じることができるというメリットはあるが、

現在のコロナ禍で実施できていない状況にある。学内にそのスペースがあれば教員としての実践力をより身に付けることができると考えられ、その確保が課題である。

また、ICTに関する設備については現状十分とは言えないが、今後情報系の新学部（未来工学部）が開設されることにより、その施設・設備を有効活用されることが期待できる。

〈根拠となる資料・データ等〉

1-2-1：北里大学教職課程センター設置規程

1-2-2：北里大学教職課程センター設置規程細則

1-2-3：北里教職課程センター教育研究

## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成
<p>〔現状説明〕</p> <p>理学部では以下の選抜者基本方針を掲げ、入学者を受け入れている。</p> <p>理学部は、自然科学の基礎知識に立脚して社会の広い分野において研究者・専門技術者・教育者として活躍できる人材、また大学院でさらに高度な教育を受けるための能力を有する人材を養成することを目的としています。入学者の受け入れにおいては、高校までの基礎学力と、これに基づく筋道立った思考力を備え、かつ知的好奇心が旺盛な入学者を選抜することを基本方針としています。</p> <p>選抜者基本方針の下、各学科において求める学生像を定めている。</p> <p>例えば、物理学科では、(1) 自然現象の背後に潜む法則性に関心を持ち、それらの現象を基礎原理から論理的に解明する意欲を持つ学生、(2) その目的のために必要となる、実験・測定・解析技術を積極的に習得する熱意を持つ学生、(3) 身に付けた知識・能力を、基礎及び応用研究の多彩な場面で自在に活用する志向を持つ学生、以上3つを求める学生像として Web ページにて学内外に発信している。各学科ともその特徴を生かした教育者として活躍できる人材（入学生）の確保を行っている。</p> <p>入学後直ちに行われるオリエンテーションにおいて、各学科の教職課程の履修を希望する者に対し、教職課程担当教員から教職課程の履修、専門職としての教員の在り方、卒業した教職課程履修者の進路状況などの詳細な説明を行っている。教職課程履修者は、学部の専門科目に加えて、「教育の基礎的理解に関する科目」を履修し、その学修を通して人間性を磨き、専門職としての教員に求められる資質や能力を身に付ける必要がある。時間的な制約も多く、教職を担うにふさわしい学生でないと教職課程の履修を続けることは困難であるということを確認し、強い意志で臨むよう指導を行っている。そのため、履修者数の制限は設けていないが、例年それに応え得る学生が履修登録を行い、卒業後の教員免許状の取得を目指して学修している。</p> <p>履修を継続するための基準として、3年次までに配当された教育の基礎的理解に関する科目等を全て修得し、かつ学部学科を卒業見込みの学生のみ、4年次に教育実習を行えることとしている。</p> <p>教職課程ポートフォリオ（履修カルテ）に毎年度履修した科目の振り返りや今後の課題、求められている教員としての資質や能力が各学年でどの程度身に付いたかを記入し、その内容に基づき、教職課程担当教員は学生と面談を実施し、学生の学修状況に応じ、きめ細やかな対応を行うこととしている。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>各学科のそれぞれの学位授与方針の下、卒業要件となる学科の専門科目のほとんどを「教科に関する専門的事項」で満たせることとしていることから、学部、学科の学位授与方針に基づく、その特色を大いに生かした教員養成を行っている。また、各学</p>

科共に免許法施行規則に定められる実験科目を多く配置し（物理学科：物理学実験 4 科目 7 単位、化学科：化学実験 3 科目 5 単位、生物科学科：生物学実験 7 科目 7 単位）、それぞれの特色を生かした実技を身に付けた実践的な指導ができる理科教員を養成している。

〔取り組み上の課題〕

入学時のオリエンテーションで教職課程の履修について詳細な説明を行った上、それを理解した学生が、履修登録し、今後 4 年間の学修に取り組むが、その後の過程で教職課程の履修を放棄する学生も一定数存在している。オリエンテーション時に卒業後の進路についての説明を詳しく行い、教員としての将来像をしっかりと持たせることなど、途中で履修を放棄する学生を減らす取り組みについて検討する。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 2-1-1：学位授与方針
- 2-1-2：入学者受入方針
- 2-1-3：新入生オリエンテーション資料
- 2-1-4：教職課程便覧
- 2-1-5：教職課程ポートフォリオ（履修カルテ）

<p>基準項目 2-2 教職へのキャリア支援</p>
<p>〔現状説明〕</p> <p>教員採用の求人情報は、就職センターと連携を図り、教職課程センターに集約することで、学生と教員が自由に閲覧できるようにしている。学生からの進路相談については、教職課程担当教員が個別面談による指導・相談体制を設けている。</p> <p>教員採用試験受験希望者に対して、主に3年生を対象に、10月から12月の毎週土曜日に教員採用試験に向けた基礎力実践力の養成を目的として、試験対策自主セミナーの支援をしている。また、例年2月に対策講習会を開催し、5日間の講習で、教員採用試験の概要と最近の状況、教職教養の要点（教育心理や教育史など）、論作文の書き方の解説に加えて、集団面接・集団討論を体験するプログラムを実施している。</p> <p>4年次生に対しては「教員採用試験・面接対策直前指導」として、公立学校の2次試験直前の7月下旬から8月上旬の3日間開催している。日ごろ接している本学の教員ではなく、外部講師を招き本番さながらの集団面接・個人面接の指導を行っている。</p> <p>キャリア支援の充実、本学の教員養成の更なる発展のため卒業生との連携を強化する観点から、2016年度から「北里大学教職課程ホームカミングデー」を開催している。本学同窓会の協力の下、本学で教職課程を履修し教員となった卒業生を招き、学生との交流の機会を提供している。</p> <p>進路選択の一つとして、横浜国立大学と教員養成高度化連携に関する連携協定・覚書を締結し、連携大学特別選抜入試による横浜国立大学教職大学院への進学を可能にしていること、またそれに基づく、教職大学院接続準備プログラムを実施している。2021年度は連携大学特別選抜入試により1人が教職大学院へ進学している。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>キャリア支援の充実と本学の教員養成の更なる発展のため、本学卒業生との連携を強化する観点から、「北里大学教職課程ホームカミングデー」を2016年度から開催している。このイベントは本学同窓会の協力の下、本学で教職課程を履修し教員となった卒業生を招き、学生へ最新の学校現場の生の声を伝え、また、学生が直接模擬授業を行い、卒業生教員からアドバイスを受け意見交換を行うなど交流の機会としている。2016年度の開催時には卒業生34人、学生95人の参加があり、参加者のアンケート結果からは本イベントに対する満足度は高いことが分る。3年に1回のペースで開催しており、2回目を2019年度に実施（2019年11月9日開催 卒業生36人、学生165人）した。本来、2022年度は開催すべき年度ではあるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、開催を見送った。</p>
<p>〔取り組み上の課題〕</p> <p>卒業生との交流事業として「北里大学教職課程ホームカミングデー」を実施してい</p>

るが、前述のとおり、開催を見送った状況にある。本学の特色ある取り組みであるため、次年度以降は例えばオンラインで実施するなど対応を検討し、開催する方策を探る必要がある。あわせて学生にとっても教職課程履修の動機付けとなる非常に効果のある取り組みではあるがその予算の確保も課題の一つである。

〈根拠となる資料・データ等〉

2-2-1：教員採用試験対策自主ゼミナール開催のお知らせ

2-2-2：教員採用試験対策講習会実施案内

2-2-3：教員採用試験・面接対策直前指導の案内について

2-2-4：教職課程ホームカミングデー実施要領

2-2-5：横浜国立大学と教員養成高度化連携に関する連携協定・覚書



## 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施
<p>〔現状説明〕</p> <p>教職課程履修者の必修となる教科に関する専門的事項のほとんどは卒業要件に含まれる。</p> <p>物理学科 : 卒業要件 124 単位のうち、教科に関する科目 40 単位を含む  化学科 : 卒業要件 124 単位のうち、教科に関する科目 65 単位を含む  生物科学科 : 卒業要件 124 単位のうち、教科に関する科目 43 単位を含む</p> <p>その観点からも建学の精神、学科の学位授与方針や教育課程の編成・実施方針を踏まえた理科教員の養成ができています。</p> <p>教職課程の授業科目の多くはアクティブ・ラーニングを取り入れて実施している。例えば、1 年次に担当されている教職概論では、教科書、参考書、配付するレジュメや資料等に基づく授業を基本としているが、まとまりごとに討論や発表等を行うとしており、早期に発表や討論といった方法を取り入れた授業を行っている。また、教職概論では、授業ごとに学んだことと振り返りを「学びの記録」に整理することで、自らの学びを調整して授業の目的を実現できるようにしている。</p> <p>教職課程のシラバスについては、各科目の学修内容、評価方法など必要な情報を記入し、学生と教員で共有できている。このことは、全学の教育委員会において、毎年シラバスの作成要領を作成し、記載項目に齟齬がないよう、全教員へ周知しているからであり、この中で、①準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間、②課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法、③授業における学修の到達目標及び成績評価の方法及び基準、④卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連、⑤当該授業科目の教育課程内の位置付けや水準を表す数字や記号（ナンバリングを含む）などの記載も求めている。それに加えて、学部内の教員によるシラバスの第三者チェックを実施しており、記載項目に漏れがないか、学生に分かりやすく記載されているか等について、チェック表を基に確認作業を行っている。</p> <p>4 年次に教育実習を行う上での履修要件としては、教育実習を実りのあるものとするため、3 年次までに担当された教育の基礎的理解に関する科目等を全て修得し、かつ学部学科の卒業見込みの学生のみが履修できることとしている。このことは、教職課程便覧において明示しているほか、ガイダンス等でも周知している。</p>
<p>〔長所・特色〕</p> <p>今日の学校教育に対応する内容上の工夫として、教職課程科目において、高等学校の現職の教員などによる講義や神奈川県立総合教育センターや高等学校の訪問を実施している。教職課程を履修している学生は、それらから教育現場の実践を踏まえた教職の意義についての知見や教育現場の最新の動向について知ることができる。</p> <p>例えば理科教育法Ⅳでは、国立教育政策研究所教育課程研究センターの学力調査官</p>

や、神奈川県内の高等学校等から現役の教員を外部講師として招き理科の最新動向や、教育現場の現状を踏まえた講義を実施している。

〔取り組み上の課題〕

ICT の活用については教育方法論の中でデジタルコンテンツを用いた実習と模擬授業、スマートフォンを用いた測定アプリケーション活用や、対話的授業実習と模擬授業を実施しており、理科教育法の中でも ICT 機器や授業支援システムを活用した模擬授業と相互評価、それを通じた検討を講義として行っている。今後、ICT 活用に関する科目が開講されるため、科目間での授業展開や必要に応じ設備の導入について検討する必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 3-1-1：履修登録単位数の上限（CAP 制）の緩和に関する規程
- 3-1-2：学則
- 3-1-3：教職課程便覧
- 3-1-4：シラバス

## 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

## 〔現状説明〕

実践的指導力を育成するため、現場での体験活動の機会を設定している。

まず、介護等体験は、教職課程センターと神奈川県教育委員会、神奈川県社会福祉協議会と連携し実施している。2年次は特別支援学校2日間と3年次は社会福祉施設へ5日間の日数で学生派遣の調整を行っている。介護等体験に参加する学生には「介護等体験記録簿」の作成を義務付けており、介護等体験にあたっての抱負と課題や日々の活動目標を体験前に記入させる。体験中にはその内容、支援を行う上での留意点や感想、反省点や自己評価を日々記入させ、それを各施設側の教員（援助者）の確認を得る仕組みを作っている。日々の振り返りだけでなく、介護等体験をすべて終えたのち、最終的な感想、成果を記入する。このことで、学生の実践的指導力の定着を図る。

次に、相模原市内の県立高校4校と連携を図り、教職課程履修学生が、高校で行われている研究発表会への参加や、「地域とともにある学校」の取り組みでは実際の授業を見学する機会を与え、実践的指導力を育成している。

正課外の取り組みとなるが、教職課程センターと相模原市教育委員会の共催により相模原市内の小学生を対象とし「夏休み子ども実験教室」を開催している。学生にとっては「理科の楽しさを教える楽しさを学ぶこと」、地域の子どもたちには「理科の実験を通じてその面白さを体験してもらうことで、科学への関心を高めること」を目的としている。学生自らが主体となり子供たちへの実験の指導を行い、企画・運営、広報活動を行うことを通して企画力や実践的指導力養う学びの機会としている。

## 〔長所・特色〕

希望者に対して、横浜市との連携により、横浜市内の中学校へ短期（1日）の学校インターンシップを実施している。科目として開設はしていないが、主に3年生を対象として1月下旬から2月上旬にかけて、実際の学校において生徒と接し、教育や学校の実体験を通して学び、教育実習への不安を解消し、学んだことを教育実習に生かす取り組みをし、実践的指導力を育成している。

## 〔取り組み上の課題〕

実践的指導力を養うためにはやはり、対面での体験が一番効果的と考えられるが、コロナ禍において実施できない状況が続いている。夏休み子ども実験教室は2019年度を最後に開催できていない。今後は感染対策を十分に講じての対面での開催や、その他オンラインによる開催なども視野に入れて効果的に学生が実践的指導力を身に付けられる方法を検討する。あわせて、学生の希望を踏まえた新たなインターンシップやボランティア活動を提供する必要性も検討する。

〈根拠となる資料・データ等〉

3-2-1：介護等体験記録簿

3-2-2：夏休み子ども実験教室（北里研究所報）

3-2-3：横浜市学校インターンシップ開催案内

## III 総合評価

理学部では、中学校一種（理科）、高等学校一種（理科）の教員免許状を取得できる。本学部の始まりである衛生学部から50年以上理科教員の養成を担い、今までに3,000人を超える学生が教員免許を取得し、そのうち300人程度が教育職員として従事している。それは学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に則ったカリキュラムに基づき、教科に関する専門知識や、幅広い知識を備え実践的な指導力を持った教員養成が適切に行われているといえる。これには、学部の専門科目を担当する教員の尽力に加え、教職課程担当教員が、授業に関することや、進路指導などをきめ細かく対応していることも大きく関係している。また、介護等体験や、希望者へ実施している短期学校インターンシップなどの取り組みにより、実践的な指導力を養える場所を提供できていることも一つの要因である。

講義等では、教育に関する専門的事項や教科の指導法において、多くの科目でアクティブ・ラーニングを取り入れており、学生が主体的に学ぶことの重要性を認識させることができている。3年次から4年次にかけては教員採用試験の対策講座や面接直前指導を実施し、学生の就職支援体制が構築されており、キャリア支援についても適切に機能している。

この中で、施設・設備の整備が課題となるが、実験室などは教職課程専用の実験室の設置も含め、既存の施設の有効活用を検討することや、ICT機器や環境の整備等も検討を進める必要がある。

教職課程の組織については、今後も教職課程センターとの連携を維持し、教員の確保や教育実習の調整など円滑に進められるよう、引き続き適切な運営に努める。

## IV 「現況基礎データ一覧」

令和4（2022）年5月1日現在

法人名	学校法人北里研究所						
大学・学部名称	北里大学理学部						
学科やコースの名称	物理学科、化学科、生物科学科						
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等							
① 昨年（2021年）度卒業生数	205人	物理学科	43人	化学科	83人	生物科学科	79人
② ①のうち就職者数 （企業、公務員等を含む）	90人	物理学科	25人	化学科	38人	生物科学科	27人
③ ①のうち教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）	21人	物理学科	5人	化学科	6人	生物科学科	10人
④ ②のうち、教職に就いた者の数	5人	物理学科	1人	化学科	2人	生物科学科	2人
④のうち、正規採用者数	2人	物理学科	1人	生物科学科	1人		
④のうち、臨時的任用者数	3人	化学科	2人	生物科学科	1人		
2 教員数							
	教授	准教授	講師	助教	その他	計	
教員数							
物理学科	4人	3人	7人	1人	0人	15人	
化学科	4人	4人	4人	5人	0人	17人	
生物科学科	4人	2人	5人	3人	0人	14人	
教職課程	1人	1人	0人	0人	0人	2人	
相談員・支援員など専門職員数 0人							

